

## おじさんは どう生きるか



恵庭市医師会  
かたおか循環器内科クリニック

いま むら えい ちろう  
今 村 英一郎

昨年、出身高校の北海道同窓会に出席した。自分より少し年上の、元サラリーマンの先輩たちは企業を定年退職となり、再就職した人、マンションの管理人になった人、自分は専業主夫となってまだ働いている奥さんのために食事を作り、娘夫婦に代わって孫を幼稚園へ送迎している人もいた。起業した会社社長はいまだに第一線で働いている。60歳台の生き方はバラエティに富んでいる。

私は今年還暦、サラリーマンだったらそろそろ定年だ。人生の3/4を消化、残りは1/4くらい。残りの人生をどう生きるか。

医師の生き方もまた様々である。勤務医あるいは開業医を早めに引退して、自由な時間でいろいろな事をするのもあり。白髪のおジイさんになっても毎日外来を続けるのもあり。自分が子供の頃に長年お世話になった実家の近所のモギ先生はそんなタイプだった。

私は循環器内科医としての仕事が好きである。救急当直や夜間の呼び出しは体力的にきつくなったが、もうしばらくは自分の居場所をしっかりと定めて、やりがいを感じながら仕事を続けたい。そんなことを考えていた時に医業承継のお話を頂き、令和5年1月、遅まきながら58歳にして開業医になった。医院の運営は初めての事ばかりで苦労の連続だが、医院のスタッフや周囲の人たちの助けで一つ一つ課題をクリアし、院長交代で少し減少した外来患者数も徐々に戻ってきて、幸いなことにやりがいを感じながら過ごせている。ここから先は健康に留意して、少なくともあと10年、70歳までは患者様のために働こうと思う。そこから先は、その時の気力・体力・認知機能を再評価して考えよう。

なお、私の開業医への転身は、それまで専業主婦だった妻の日常を大きく変えることとなった。私の転身を支持し、今は医院の裏方仕事を手伝ってくれている妻に深く謝意を表したい。

## 世の中は 変わるもんだ！



札幌市医師会  
白石中央病院

かじ わら まさ はる  
梶 原 昌 治

“新たな冷戦開始！これは日本に良いことかも！”

1989年秋、場所はコロンビア共和国首都ボゴタの動物園。アマゾンからアンデスにかけての疫学調査をコーディネートしてくれたザニノビック教授が驚いた様子で、“今、ラジオでベルリンの壁が崩れたと報道している”と知らせてくれました。小生は、お手伝いでの疫学調査に参加でしたので、ヤレヤレ、無事にコロンビアから帰れそうと思っていた時だったので、半信半疑で聞き流していました。帰国後、連日報道されるベルリンや東欧の様子に小生は釘付けになりました。受けた感想としては、“これで第二次世界大戦の敗戦国の頸木から日本は解放されると！”。豈図らんや、日本は米国の産業上の敵国認定、中国・韓国と組んだ米国にコテンコテンにやられる始末。半導体に至っては産業用半導体以外では壊滅状態。大停滞の30年でした。

さて、今回の中国・ロシアVS米国と、その同盟国の間での冷戦はいかなることになるのでしょうか？

今、岸田政権は、小泉改革以来続いていた“小さな政府”政策から“大きな政府”政策に転換することを明文化いたしました。冷戦による対立激化に備え、国力を高め、軍需を賄うためには必要なことながら、これは凄いことです。少し、気長に待てば、診療報酬の増額もかなうことになります。前提条件は、今の“大きな政府”政策が続くということではありますが！

最近、完全に米国の政策が変わったと心底思ったのが、円安ながら米国が文句を言わないことです。日本の産業界にとって円高が重しの最たるものでしたが、円安にもかかわらず米国は日本を為替操作国に名指ししませんでした。本当に、米国は日本を今回の冷戦でも必要としているようです。そうであるならば、日本経済復興は実現するかもしれません！

今年の春は、少し、明るいニュースも出てきそうです！